

白山山系 笈ヶ岳（おいづるがたけ） 1841m

2013年5月3日(金)～4日(土)

メンバー L：磯部S（記）、曾根崎、磯部N、山口、小池N

もう少し足を北に伸ばせば、日本海。哀愁を感じさせる山名。
ヤブがひどく残雪期しか人を寄せ付けぬこの山は岳人の登頂意欲をかきたてる要素いっぱいだ。

5月3日（金）晴れ

前夜出発。東海北陸道白鳥ICを降りてからが、意外と長い。深夜に道の駅瀬女（せな）に到着、好きなミーティングもほどほどに仮眠する。
翌朝、登山口の自然保護センターまで移動。駐車場は2カ所あるが、手前はすでに満車だった。ほとんどの登山者は、10時間以上かけて日帰りで望むらしい。
センター裏手の遊歩道からスタート。いきなりカタクリの大群落に出迎えられ驚いた。
他にも高山植物が豊富で、花好きの人にはそれもまたこの山に向かう大きな理由のようだ。
暗いうちはカタクリの花は閉じているらしく、みんなしよぼんとしているが、明るいうちに帰れるだろう下山時には、華やかな姿で見送ってくれるはずだ。



ジライ谷出会い 石飛で渡るが、増水時注意。



間きしにまさる直登の連続！でも踏み後はしっかりあり。

しばらく川沿いに遊歩道を歩いていくと、いよいよ今回の核心、急登の始まるジライ谷（イヤネネーミングだ）左岸尾根に取り付く。
木の根をつかんだり、要所要所にははられた固定ロープを補助に使ったりと、テント泊装備の登山者にはけっこう大変である。
雨でも降った後にここを下降するには、初心者がいればロープが必要だろう。

振り返るたびに裾野を広げたてっぺん白山が、だんだんとその勇姿を現してくる。立派だ…。いつかあそこに・・と思いを寄せる。
主稜線が近づいてくると、道もゆるやかとなり雪をまとってくる。トレースは道を形成していた。
小ピークを左から回り込み主稜線をのこすと、雪山に映えるブナ林の向こうにめざす笈ヶ岳が見えた。
トラバース気味に下りながらじきに本日のテント場、冬瓜（カモウリ）平に到着。アイゼン不使用。



正面奥が笈ヶ岳。みんなで整地も楽しいひととき



中央に我らがテント。冬瓜（カモウリ）平は癒しの空間・・・

緩やかに波打つ雪の海原である。他にテントは一張りしか無く、距離を置いてなおかつ笈ヶ岳がテントから見ることのできる最高の場所を選んだ。
勉強のためにもみんなで雪ブロックを積んで風よけを作ったりとしながらも、ジャンボテントに5人という余裕の居住空間の中で午後のひとときをくつろいだ。
晩ご飯はベジカンカレー。頑張って用意した甲斐があり、おいしいのなんのって努力は報われるのだ。

<タイム> 自然保護センターP(8:00) – ジライ谷(8:30) – 主稜線(12:35) – 冬瓜（カモウリ）平(13:05)

5月4日（土）晴れのち曇り

翌朝は、アイゼンを着けて出発。主稜線西側の3つの谷を越えてコルに登りあげる。谷は斜度もあり、4月にならないと雪崩が心配な箇所だった。そこからは快適絶景の雪尾根散歩。尾根にぶつかるところの雪のない黒い頭（小ピーク）を、初心者は少し緊張しながら左から巻いた。



日の出のコルに向かって、早朝の凜とした世界の中を進む。



左奥が笈ヶ岳。標高差の少ない尾根伝いに気持ちよく目指す。

笈のピークは雪もなく、まるでヤブ山だが、そこは遠望を楽しんで足下は忘れた。この頃には日帰り登山者が次から次へと現れ、団体もいて、ちょっと興奮。まっみんなの山だからね、贅沢も言えません。足跡のいっぱい付いた広い尾根をゆっくり下降した。



な、なんか裏山のてっぺんという感じ?!でもみんな満足!



右奥に白山を眺めながらの、雪山散歩。トレースの多さで人気度がわかる。

テントサイトでコーヒータイムをとって、またくつろぐ。やはりこの山域で日帰りはもったいない。この時間と空間を楽しまなければなんとする、である。

後ろ髪を引かれるように下山。雪尾根を過ぎ、またやっかいな急下降となる。ポツポツと顔に当たる物もあったが、それ以上にはならなくかえて快適な気候だ。大変だったが幸い20mロープのお世話になることもなく、ジライ谷出合いに舞い降りた。ただこの3m程の谷渡り（飛び石）が増水していたため少しいやらしく、前の団体さんの固定ロープを使わせてもらって、初心者は助かった。

最後はやっぱりカタクリの花たちが見送ってくれて、気持ちよくフィナーレを飾ってくれた。

<タイム> 冬瓜平(5:50) - 笈ヶ岳頂上(8:40-9:00) - 冬瓜平 - 自然保護センターP(17:00)



キクザキイチゲ（左の白い花）とカタクリ



ちゃんと開いてくれたカタクリ